

2023年度 法科大学院

第3期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

Xは、民法162条1項に基づく所有権の時効取得を根拠にして、Yを被告とする甲土地の所有権確認の訴えを提起した。

- 1 Xが認容判決を受けるには、どのような事実を主張立証すべきか。
- 2 Xが20年間の全期間にわたる占有の事実の立証は困難だが、民法186条を利用すれば勝訴できるのではないかと考えたとする。自己の時効取得を裁判所に認定させるため、Xは、どのような事実を主張立証すべきか。
- 3 上記2のXの主張立証に反駁するため、Yは、どのような事実を主張立証すべきか。

(解答は全て解答用紙に記入すること)

[刑事訴訟法]

問 次の1、2につき、下記の〔 〕内の用語をすべて使用して説明しなさい（同じ用語を何度用いてもよい）。

- 1 前科、とりわけ同種前科の存在やその内容を示す証拠（以下「前科証拠」という）による事実認定にはどのような問題があり、どのようなときに許されるか。
- 2 前科証拠を被告人と犯人の同一性の証明に用いることが許されるのはどのようなときか。

〔推認、特徴、実証的根拠、犯人、攻撃防禦、前科、人格評価、同種前科、証明力、争点、犯罪性向、拡散、同一、犯罪事実、合理的な推論、自然的関連性、類似、合理的〕